

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年3月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676000088
法人名	医療法人 財団 浩誠会
事業所名	グループホームゆめB棟
所在地	鹿児島県霧島市霧島田口2143番地 0995-57-2077
自己評価作成日	平成29年1月9日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年3月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは風光明媚な霧島の地にあり、北には高千穂の峰が聳え立ち、南には桜島が眼下にあり、雄大な景色を満喫できる。また、霧島神宮のお膝元に位置し、正月には初詣にも出かけている。併設の霧島杉安病院との医療連携も充実しており、内服薬や心身の状況をこまめに主治医・看護師に報告し連携を図ることで、異常時の早期発見に努めている。リハビリにも積極的に参加し、筋力の維持・増強や認知症の進行予防だけではなく、より長く、快適にホームで過ごしていただけるよう支援している。明るく開放的な建物と豊富な温泉のもと、専門スタッフとゆっくり安心した生活を送ることが出来ます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然環境に恵まれた温泉の湧く霧島連山を頂く、霧島神宮近くにある。リビングからの広大な景色は利用者や職員を明るい気持ちにさせている。

母体の関連医療施設が隣接しており24時間での連携が行われ入居者や家族の安心に繋がっている。

ホーム独自の理念とは別に、職員全員で毎年4月に目標を掲げ「そのひとらしく生きる」ことを意識しながら、利用者の尊厳を尊重し、一人ひとりを大切にすることを共有し、日々ケアを実践している。

法人の研修やホーム内の勉強会にと職員の研修体制は充実し、管理者は職員のスキルアップや質の向上に積極的である。職員の定着率も高く、利用者個々に応じた支援を心掛けている。食事は手作りで季節感を取り入れた食事を提供している。

管理者や職員は一人ひとりの変化に気付き、思いを感じとりながら笑顔あふれる生活が出来るよう支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念である「その人らしく生きる」ことを支えし地域住民と共に医療、保健、福祉活動を通じ利用者様が共同生活を送る上で、自らの役割をもつことにより、達成感や満足感を得、自らの生活の場であると実感できるよう必要な援助を行う	ホームの理念とは別に毎年4月のスタッフ会議で年間のケア目標を掲げ3月に評価している。毎日の申し送り時の唱和やミーティングや勉強会を通じて全員で理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小・中学生の生徒さん達の来訪、小学校の学習発表会の見学、買物の同行、近隣の高校生の介護ボランティア活動、又、毎年来訪して入居者様とのふれあいをもってもらうなどしている。中学校の体験学習で来訪し、高校に進学して再来訪してくれる人もいなど交流が図られている	地域のグランドゴルフに参加する利用者もいる。小学校からは案内状をもらい学習発表会に出向いたり、地域の文化祭にも出展している。散歩や買い物時には近隣の人々と挨拶を交わしたりホームの夏祭りには地域の方々の参加もある。日常的に地域とは交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	市主催の認知症家族介護交流会への参加ライフサポート取得し高齢者の方と暮らす中での悩み、その中で認知症の方の介護されているご家族の方への支援・助言などを行っている。地域の公民館の依頼にて認知症の勉強会なども行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ホームの活動内容・取り組み・問題点を報告し活発な意見交換を行い、サービスの質の向上に生かしている	2ヶ月毎の定期開催の会議には家族・行政・地域住民・民生委員・消防署・駐在所・自治会長と多くの参加をもらっている。議題はホームが提示し現況報告・行事報告やヒヤリハット報告し参加者からは活発な意見交換が行われ、出された意見を基にサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは、適切な運営を行うために市担当者を訪ねたり電話にて相談したり、運営推進会議にて意見交換したりし、サービスの質の向上につとめている。	運営推進会議に出席してもらったり、市担当者とは面談や電話などで指導や助言を頂いている。市が開催する研修会へも積極的に参加して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項説明書に「原則として身体拘束は行いません」とあり、職員も周知徹底して如何なる拘束も行わないことが申し合わせてある。又、法人内の身体拘束廃止委員会に出席している。	法人の身体拘束廃止委員会の研修会やホーム内でも勉強会を行っている。日中は施錠せず職員間の見守りで安全な暮らしを支援している。座位が困難な利用者の車椅子での時間を考慮したり、言葉の拘束についても皆で話し合い共通認識を持つ事で身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては新聞、テレビなどでの報道を知らせ、虐待防止のために職員と話し合っている。又、言葉に対する虐待、職員のストレスから起こりえる虐待に対して管理者・主任が気をつけている。又、職員同士の助け合いで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用が必要な事例はないが、成年後見制度や権利擁護についての研修会に参加し、職員へ勉強会を通して理解の周知を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、十分な説明を行い同意を得た上で署名捺印をいただき、本人・家族に関する契約書（重要事項説明書）を配布している。又、解約する際も、契約者と十分な話し合いを行い退去後に関しても安心いただけるような説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置し、苦情相談窓口も目に留まりやすい場所に掲示しており、日々の生活においても利用者様が相談、苦情の言える雰囲気作りに心がけている。入居される際、契約書の説明時に相談・苦情がある場合は、些細なことでも相談していただけるよう声かけしており、相談苦情があった場合は運営者・管理者に報告がされ、改善できるところは速やかに対応できるようにしている。	利用者には日々の暮らしの中で意見・要望をくみ取るように努めている。家族からは面会時や電話また運営推進会議や家族会などで話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見・要望は解決策を話し合いケアや運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議において、運営者・管理者も出席しており、話し合いの中で職員から出された意見・提案などを反映できるよう努めている。	離職者はほとんどなく、職員は日々のケアに関する意見要望を活発にミーティング時に出している。管理者は母体法人へ連絡相談し解決策を見出し、働きやすい環境作り話しやすい雰囲気作りに心掛け運営やケアに反映させている。職員の資格取得も支援している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頻回にホームに訪れ、勤務の商況・各自の業務を把握し、声かけなどを行い職員が意欲的になるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修参加を推進しており、グループホーム協議会や地域密着連合会の研修も積極的に参加させており、研修報告書提出も義務づけている。又、資格を取ることも勧め、勉強会も開くなど職員育成に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム連絡協議会において、各種研修会や講演会に参加したり、2ヶ月に1回地域の施設職員と情報交換など行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望があった際は、見学を事前にもしてもらったり、管理者・計画作成者が本人の不安や悩みを聞き入れ、現在の状況・状態の把握に努め、安心して利用できる努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居者様同様、家族に対しても施設見学などしていただき、又、電話相談・インテークの際もあらゆる場面を想定し対応できるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、本人の心身の状態をしっかりと確認し何を必要としているか見極めて家族からも生活歴などを聴き、ホームで対応できない支援については他の必要なサービス機関の紹介をするなどしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人が出来ることまで手を差し伸べず、出来ること的能力を十分に引き出してあげ、喜び・悲しみを共有し、共に支えあい生活していただいている。又、本人が好きだった歌や短歌、得意なお菓子の作り方や昔の食べ物などを教えていただき一緒に作っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見や敬老会に家族を招いて食事・リクリエーション（ゲーム・カラオケ）をしたり、一日を職員・家族・入居者様全員で一緒に祝う時間を共有し、支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の要望に応じ、馴染みの場所に向いたり、ご家族に思いを伝えたりし関係が途切れないように支援しているが、高齢化により現状を継続していくことが少しずつ困難になりつつある。	馴染みの友人・知人の訪問もある。予約を取り馴染みの美容室へ行ったり墓参りへも行っている。電話をかけて欲しいと言われる利用者には掛けて、手紙を出されるかたにも取り次いでいる。家族の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格、行動など把握し、気の合う同士テーブルの席を配置し、トラブルにならないようしている。難聴や弱視の方に対しては職員が常に声かけすることで孤立しないよう交わりが保てるようしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される方のほとんどが体調悪化により病院であり、加療中に面会に行ったり、ご家族をお見受けした際は声かけし近況を尋ねたりし継続的な関係を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、ご本人・ご家族に生活歴を訊ねたり、個々に望まれる暮らしをケアプランに取り上げ、その情報を職員が共有し、望まれる暮らしが出来るよう支援している。	「申し送りノート」や「介護支援記録票」や家族からの情報で利用者の思いや希望の把握に努めている。困難な場合は傾聴や表情からくみ取り本人本位に検討している。職員は情報を共有し、ケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の中から、過ごされてきた環境・経緯を把握し、共同生活の中で望まれる生活が出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の生活の状態を些細なことでも記録に残し、心身の状態の変化を即座につかめるよう情報の共有を図り、ご本人が活かせる出来る限りの能力を発揮できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意見、関係者からの情報提供よりケアのあり方・方向性など職員全員で分析し、必要なサービス提供や介護計画を作成している。	利用者・家族から希望や意向を聞き、主治医や職員からの意見を基に作成した計画書である。ケアの情報は「介護支援記録票」で共有し3ヶ月毎のモニタリングを行っている。今後はさらに地域や家族も共に支える支援で、現状にそくした介護計画を組み込む予定である。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の健康状態や日常生活の様子が分かるように、具体的に記録し、特に変化があった場合などは申し送りノートに記載し情報の伝達漏れがないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院への定期的受診、機能訓練の必要な方へのリハビリなど、ご本人・ご家族の方にも安心していただいている。職員が付き添いで歩いて行ける距離の環境である。他科受診はご家族での通院を基本としているが、状況に応じ通院介助を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方や公民館長様が運営推進会議のメンバーに入っており、ボランティアの受け入れも随時行っている。近隣の小・中・高校生が毎年訪れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院で定期的な受診を行い、ご本人・ご家族の得た入所者様に限り年1回誕生日に健康診断を行い健康管理に努めている	利用前の受診経過は把握できていて家族や医師との連携は密である。希望に応じたかかりつけ医となっているがほとんどの利用者が協力医療機関となっている。協力医療機関や歯科医による定期的な訪問診療を適切に支援している。緊急時の対応など医療や家族と連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関との契約による看護師により、定期的に日常の健康管理や医療の支援を受けている。利用者様への声かけホームスタッフへの聞き取りをし情報の交換など、健康に対しての支援が行われている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院される際は情報提供書を提出し、入院された後も職員が訪ね、医療関係スタッフと情報交換するなど安心して入院できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>病状が重度化したり、必要な医療が生じてきた場合は、主治医・ご家族の希望に添えるように支援する。看取り・終末期のアンケートを取りご本人・ご家族様の意思を確認している。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの指針を入所時に説明し、利用者・家族から同意を得ている。状況変化に伴い主治医や関係者の連携のもと、都度利用者や家族の意向を確認しホームで出来る最大限の支援を職員全員で共有している。さらに職員の看取りに対する勉強会の充実や家族の協力体制の構築に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応については、協力病院との連携が取れるよう緊急連絡網により迅速に対応できるようにしている。又、法人の勉強会に参加したり、看護師長による勉強会を定期的にホームで開くなどして、急変対応出来るようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人内の緊急時非常事態連絡網により、日常誘導が行われるようにしている他、年2回消防署立会いの訓練において指導を受けている。スプリンクラーを設置している。水害、地震、土砂災害の災害対策計画書を作り避難訓練を行っている</p>	<p>消防署立ち合い、また自主訓練を昼夜間想定で行っている。運営推進会議と同日に行い参加者にも避難の様子を見てもらった。地域住民や母体医療機関の寮からも避難訓練に参加してもらい協力体制を築いている。災害時の備蓄も完備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言動は、常日頃より運営者・管理者より指導をされておりプライバシーに関わる全ての事に不適切な対応がないよう努めている。職員に対して個人情報の秘密厳守を指導している。	接遇や個人情報の研修はスタッフ会議で行っている。利用者の尊厳やプライドを損ねるような声掛けや対応の防止に努めている。名前は利用者や家族の希望する呼び名で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パーソンセンタードケアを心がけ、「その人らしく生きる」を大事に個人の行動を妨げないよう、業務優先にならないよう常に声かけを行い、気軽に言える雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、その日の健康状態や変化を把握し、プランに取り入れられている内容を確認し、その方の希望に沿って生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理容・美容などはご本人・ご家族のなじみの店での利用をいただき、又、店の希望がない場合などはご本人・ご家族の了解のもと職員による散髪が行われている。おしゃれが楽しめるように化粧や、出掛ける際は気に入った服装の着衣などの手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聴き献立の決定がなされ、食べられないものがあつたりした場合は、その方だけメニューや材料の変更をしている。配膳・下膳など自発的にされる環境を作り、会話を交えながら楽しく食事できるようにしている。	利用者の好きなメニューになっている。母体法人の栄養士にメニューを見てもらい栄養バランスの指導を受けている。年4回の外食と家族による外食支援もある。パン好きな利用者は販売業者のパンを選んで購入している。力量に合わせて配膳・下膳や下調理も手伝ってもらったり、季節の食材や菜園の野菜を取り入れたりと食事が楽しめるよう工夫されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量を記録し健康状態の把握に努めている。又、体重を2週間に1回測り増減の変化を確認している。内科的に栄養バランスの調整が必要な方は、採血を行い、協力病院の管理栄養士により指導が行われている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨きを行い、出来ない方は支援をし、義歯の方も外して洗浄している。義歯は週1回ポリドント消毒を行っている。咀嚼状態を観察し、必要に応じかかりつけの又は協力医院にて治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で確認し、さりげなく声かけを行い誘導・介助をしている。排泄・排尿に関しても出来るだけ自立できるように支援している。日中は出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を活用しさりげなく声掛けをしトイレでの排泄の自立を支援している。工夫は個々の介護プランにも盛り込まれている。細かな誘導・介助で日中は全員布下着である。家族の経費の負担も削減されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の確認のほか、午前のお茶時間に牛乳を毎日のまれており苦手な方にはヨーグルトや繊維質のものオリゴ糖などを摂取していただいている。又、十分な水分補給を心がけている。毎日体操を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望があれば曜日・時間に関係なく入浴可能である。入浴を拒否される場合は時間を置いたり人を変えたりし体調をうかがいながら働いている。温泉であり、語りかけながら個別支援入浴でリラックスしていただいている。	毎日でも入浴は可能であるが、基本的には週3回である。体調や気分配慮しながら温泉にゆったりと安心して入ってもらっている。個浴で職員と語りかけながらリラックスし気分転換になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、余暇活動・リハビリ・散歩・テレビ観賞などリズムのある生活をしておられ、畳の居間で寝転んだり、フットマッサージ機をリラックスされていたり、昼食後30分から1時間は休息を促したり入居者様の体調に合わせた生活を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋が記録台帳に綴じてあり、又、新しい服薬については、全員が確認し用法・用量の誤りがないようにしている。服薬後も体調変化がないか状態把握に努め、些細なことでも記録するようにしており、変化があった場合は契約看護師に連絡している。薬の飲みすぎのないよう担当医に見直しを相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、身体機能を見極めて出来ることの能力を日常生活で最大限活かせるよう支援している。又、玄関掃除・テーブル拭き・食器洗いなど役割を持つことで自主的に行われるようになり、張り合いのある生活ができています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状態に配慮しながら買い物に出かけたり、ドライブや外出に出かけ近くの足湯に行きゆったりとした時間を過ごしたり、夕方散歩に出かけ戸外の空気を吸う事で気分転換が図れるようにしている。	日常的には体調などを考慮し個別の散歩や買い物・ドライブにでかけている。全員参加で家族の協力も得ながら桜や藤の花見に行ったり地域の行事へ参加する事もある。母体の公用車で全員での外出をすることでホームに閉じこもらない生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人でお金を管理されている方の他、ホームで管理している方について要望があった場合はお渡し職員と一緒に買い物をするなどお金を持ち生活をするための大切さを職員も感じながら支援している。預かり金台帳に記入しご家族にも確認して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも電話がかけられるようにしており、ご家族からの電話の取り次ぎはもちろん、電話をかけることが出来ない方でも要望があれば気軽に対応するようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員と一緒に季節に合わせた壁紙を作り掲示しており、廊下には個々に作られた作品が飾られている。居間・食堂には天窓があり、光の調整を行うなどしている。浴室の脱衣所には木製の長椅子が置いてある。</p>	<p>共有の空間は空調の管理に気を使い換気や採光に配慮されている。リビングの周りには利用者の写真や手作りの作品が飾られている。台所はホールが見渡され利用者の様子が伺え、見守りに配慮されている。調理の匂いから五感が刺激され家庭的な雰囲気から生活感や季節感も取り入れられている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂・畳の居間はワンフロアになっているもののテーブルで談話をしたり、居間で新聞を読んだり寝転んで日向ぼっこしたり・テレビを視たりと寛いで生活されている。フットマッサージ機をしながら気の合う仲間同士談話したりしてそれぞれ思い思いに過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居される際、使い慣れたタンスや昔馴染みの装飾品など持ち込んでいただくよう声かけしている。本人持ち込みの家具や時計・人形など置いてあり自分の部屋としての空間を大切にされていたりされるが、見栄えを気にされるのか、新しいものを買って揃えられてくる方が多い。</p>	<p>ホームの備え付け以外に馴染みの家具やテレビ・寝具・仏具・時計・ぬいぐるみなど本人が使い慣れたものや家族の思いが伝わるものが持ち込まれ居心地よく過ごせる工夫がなされている。畳部屋で3年程猫を飼って可愛がっておられる利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの方の心身機能を把握し、本人の持ち物で自分の部屋が確認できるようにしている。他、トイレが分かるよう目印があるなど個々の潜在能力を生かし自立した生活が出来るよう工夫している。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない